

平成21年3月24日
京阪電気鉄道株式会社

～ 京阪特急新時代～

8000系特急用車両が、 より豪華に、より機能的に、生まれ変わります

京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪市中央区、社長：上田成之助）では、新たな時代に支持される「京阪ブランド」の確立に向け、様々な取り組みを進めています。その一環として、当社を象徴する鉄道車両についても、時代の要請に沿ったスタイルへの改良を進めています。

昨年10月には、中之島線直通運転に対応するため、1列+2列のシート配列を施した快速急行用車両3000系（6編成・計48両）を投入したのをはじめ、京阪線全車両のカラーリングの一新を進めるなど従来の枠に囚われない手だてを施してきました。

そして、このたび京阪電車のイメージリーダーともいふべき、8000系特急用車両（旧3000系から転用の8030番台を除く）の改造を実施することにしました。今回改造工事の対象となる8000系車両は平成元年から順次使用を開始し、現在10編成、計80両が在籍しています。平成9年以降は、ダブルデッカー車（二階建車両）を増結し、特別料金不要の車両としては、国内最上級グレードの車両という評判を得ています。しかし、新造後20年が経過したことから、今回、抜本的な改良を行うことにしたものです。

主な改造点は、シート等インテリアのグレードアップ、車いすスペースの設置等バリアフリー対策などに加え、様々なご利用シーンに対応するため車端部については座席をロングシート化するとともに、従来なかった吊革を設置します。その際、ロングシートには、背もたれの高さを頭位置付近まで確保したハイバックタイプを採用、乗降のしやすさとワンランク上の快適さを併せ持つ、日本一豪華なロングシートをめざしました。さらに、新型3000系車両同様、LCD（液晶ディスプレイ：Liquid Crystal Display）車内案内表示器を扉上へ設置し、停車駅等の旅客案内や天気予報、ニュースなど各種情報提供の充実を図ってまいります。

なお、まだその存在がめずらしかった昭和29年から半世紀以上にわたり歴代特急車両に搭載してきたテレビについては、時代の変化によりその役目を終えたと判断し、今回の改造工事にあわせて順次撤去を進め、平成23年度内に全廃することとしています。

京阪電車では、今後ともより快適な移動空間の創造に向けて取り組んでいくことにしています。8000系車両改造計画の概要は別紙のとおりです。



(別紙)

1. 対象車両 8000系車両(8030番台を除く) 10編成 計80両
2. 工事内容
 - ・座席表皮、床敷物、扉付近等内装変更
 - ・車端部座席のハイバックロングシート化
(補助いすの一部、テレビ、電話室撤去)
 - ・LCD車内案内表示器設置
 - ・吊革設置
 - ・照明変更
 - ・車いすスペース設置 他
3. 総投資額 13億2千万円(平成21年度~23年度)
4. その他 8000系車両は今回の改造により、ご利用のお客さまがスムーズに乗降できるようになり、これまで使用を見合わせていた時間帯などでの幅広い運用が可能になります。



以上